



1 話しましょう。

旅行に行った話をしてもいいです。普段よく行くお店の話をしてもいいです。災害は、いつ、どこで起こるかわからないということを、このユニットの学びを通して活動の最後に考えられるといいと思います。

2 災害についてのことばを知りましょう。

災害についてのことばは、このユニットの最後 (p.18) に対訳付きの資料があります。みなさんで資料を確認しながら進めてください。ここですべてのことばを覚える必要はありません。

3 イラストを見て考えましょう。

この活動は、避難所（避難場所）について知る、理解を深めることを目標にしています。「そもそも避難所って?」「避難所に行ったけどよくわからない」という問題を減らすため、この活動を通して、参加者全員で正しい理解をしたいです。説明が多くなる部分ですが、参加者の経験を聴くなど、対話しながら進めてください。

② 避難所について

避難所は通常、その地域住民のためのものです。外出時は「避難所」ではなく、「避難場所」を利用する可能性があることをここで確認しましょう。以下のサイトなどを参考にしてください。



NHK「避難場所と避難所の違いは？」（こうち防災いちばん）

<https://www.nhk.or.jp/kochi/bousai/bousaiichiban/article/49.html>



内閣府「『緊急避難場所』と『避難所』について（資料1-3）」（指定緊急避難場所と指定避難所との関係）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/013/007/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2013/12/26/1342793_1.pdf

③ 避難所での特別な食べ物について

現状、ハラルフードやアレルギー等に対応している避難所はほとんどなく、ニーズに合わせてその都度対応する避難所が多いです。そのような現状ながら、外国人支援の取り組みをしている自治体も出てきました。以下には、奈良県と京都府国際センターの取り組みを挙げています。このような取り組みを教室で紹介してもいいでしょう。

もしものときのために、それぞれができる準備をしていきたいです。



内閣府「【防災施策】奈良に初の外国人避難所 250人規模、イスラム礼拝室、『ハラル』対応非常食も」（TEAM 防災ジャパン＞防災関連ニュース）

[記事を読む](#)

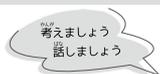




公益財団法人京都府国際センター「京都府内市町村国際化協会 災害時外国人支援モデルマニュアル」

<https://www.kpic.or.jp/saigai/modelmanual.html>

※モデルマニュアル本冊・本文の p.30 では、ハラル認証の製品の備蓄が推奨されています。



1 地震のとき、ロナさんの部屋の中はどうなりましたか。

本文の 2、3 行目を参考に考えます。

2 地震のとき、ロナさんはどうして日本語がわからなかったと思いますか。

2は、絶対的な正解がある問いではありません。「地震などの災害時は『避難所』『勧告』『緊急』など専門用語が多いためわからない」のような回答もあるかと思います。参加者の体験を話す時間にしてもいいです。12どちらも待つことを大切にしてください。

3 みんなで確認しましょう。

地震はいつ起こるかわかりません。活動中に起こる可能性もあります。もしものときに避難する「避難場所」を参加者全員で確認しましょう。事前に近隣の地図等を用意し、活動で見られるようにするといいかもかもしれません。例えば、以下のウェブサイトを使ってもいいと思います。

3の活動は、活動時間に余裕があれば、実際に教室から歩いて行ってみたいでしょう。

「あなたの家からいちばん近い避難所はどこですか」は、参加人数や活動時間に合わせ、スキップしてもいいです。



国土地理院「防災にも役立つ！ 地理院地図の使い方」（避難場所の確認と経路を調べる>地理・防災教育での活用方法を紹介します>地理院地図の使い方）

<https://maps.gsi.go.jp/help/intro/school/hinankeiro.html>



Yahoo! JAPAN 天気・災害「避難場所マップ」

<https://crisis.yahoo.co.jp/map/>



1 「わたしの避難カード」を書いてみましょう。

「わたしの避難カード」（「ヘルプカード」ということもあります）は、もしものときのために、今から準備するといいいです。このワークは、小グループやペアで行うことをオススメします。もしものとき、自分を守るためにどんな情報が必要かを考えながら、作業ができるといいいと思います。「書く」ことに集中するのか、カードを見ながら必要な情報について考える時間にするのか、教室に合わせて判断してください。

書くときは、日本語とローマ字、あるいは日本語と母語で書くのがいいと思います。以下に挙げた栃木県国際交流協会や、東京都生活文化スポーツ局の情報が参考になります。



公益財団法人栃木県国際交流協会「外国人向け防災情報」

<https://tia21.or.jp/disaster.html>



 東京都生活文化スポーツ局「外国人向け防災情報」(「外国人のためのヘルプカード」「防災リーフレット」)

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/000000144.html



2 こんなとき、あなたはどうしますか。

教室の参加人数によりますが、2、3人のグループで話し合い、そのあと全体共有するかたちをとることをおすすめします。全体共有の際の発表はだれがしてもいいです。意見交換したあと、サポートサイトに載っている参考情報 (<https://www.nhk.or.jp/shutoken/shutobo/20201012.html>) (NHK 首都圏ナビ『「災害時のトイレ」の疑問 どう備える? いくつ必要?』) を提示してもいいでしょう。肯定的な気持ちで、対話をしながら活動を進めましょう。

災害時のトイレ問題は、東日本大震災でも大きな問題の1つでした。水分摂取を抑えるという方法もありますが、健康被害が懸念されます。大切なのは「備え」です。例えば、携帯トイレや尿や便を固めて捨てられるキットを準備することも、今からできることです。災害時のトイレ問題については、以下の資料をご参照ください。

 加藤篤 (NPO 法人日本トイレ研究所)「災害時のトイレの課題と今後の対応～トイレの確保は、命を守ることであり、尊厳を守ること～」(避難所の確保と質の向上に関する検討会 2015年7月31日発表)

<https://www.bousai.go.jp/kaigirep/kentokai/hinanz yokakuho/02/pdf/siry01.pdf>



3 避難所での生活について考えましょう。

- こちらも教室の参加人数によりますが、2、3人のグループで話し合い、そのあと全体共有するかたちをとることをおすすめします。全体共有の際の発表はだれがしてもいいです。

3は場面設定の理解が重要です。場面設定を参加者全員が理解したことを確認し、進めてください。いろいろな人が集まる避難所では、さまざまな課題があります。ここでは、参加者それぞれの視点で安心、安全な避難生活を送るためにどうすればいいかを考えたいです。サポーターを含めた全員で対話しながら進めてください。

避難所での課題の1つが、「発達障害者の避難所での困難」です。教室の状況や活動時間にあわせて、以下のサイトを参考にしてください。

 NHK 健康 ch「子どもの発達障害『自閉スペクトラム症 (ASD)』とは? アスペルガー症候群などとの違い」

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_346.html?msclkid=0b6701ecb3c511ecbcaebe77c88b4222



西日本新聞 me「発達障害者 つらい避難所 物音、不規則な生活にパニック 行き場失い車中泊」

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/242390/?msclkid=a0a495c6a91c11ecaafd2fd2959c8c61>

- 設定は、教室に合わせて追加・修正してもいいです。発展形として、発達障害者の避難所での困難について、以下のような設定で考えてもいいかもしれません。

(設定の例)

大きな地震があり、あなたは避難所である小学校に避難しました。避難所では、人の話し声やいびき、ペットの鳴き声などが聞こえています。そこに、子どもを連れてお母さんが来ました。子どもは叫んだり、飛び跳ねたり、耳をふさいだりしています。慣れない場所にびっくりしているようです。気持ちが落ち着かなかったり、なにか障害があったりするのかもしれません。

その親子やまわりの人、すべての人が安心して、安全に避難生活をするために、どうすればいいと思いますか。

- 以下では、防災に関してオススメのウェブサイトと映像をご紹介します。



公益財団法人仙台観光国際協会 国際化事業部「多文化防災ワークショップ」

https://int.sentia-sendai.jp/j/activity/tabunka_bousai_workshop.html



※多文化防災ワークショップです。4つのケーススタディがあります。



東京都つながり創成財団「東京都多文化共生ポータルサイト」

https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/information/howto_learn.html

※防災についての多言語の映像です。



ふり返りの時間を必ずもちましょう。何を話してもいいです。長くても短くてもいいです。自分が話すだけでなく、ほかの参加者のふり返りを聴くことも大切です。

※ふり返りの進め方などは、ユニット1に「まつお一口メモ」があります。あわせてご覧ください。